

すい臓がんドック:あなたを守る「2つの選択肢」

- 膵臓がんは、**初期段階ではほとんど自覚症状がなく、一般的な検査(腹部エコー)では発見しにくい**ため残念ながら進行した状態で見つかります。
- 一般的には膵管の異常や膵のう胞などを契機として造影 CT 検査や MRI 検査、さらに詳細に観察できる超音波内視鏡検査などで精密検査が行われます。
- メディテラスよこはまでは、**小さな膵臓がんを発見するために「全体を見渡す MRCP」と「極小を見逃さない EUS」の二つのドック項目を準備**しました。
- それぞれの特徴を分かりやすくご紹介します。

2つの検査は、「全体を俯瞰してチェックする地図」と「近くで詳しく診る懐中電灯」に例えられます。

検査法	MRCP(MRI)	EUS(超音波内視鏡)
概念イメージ	 <p>特徴: 肝胆膵の全体像、膵管の状態を把握。</p>	 <p>特徴: 1cm以下の小さな変化、詳細な観察に最適。</p>
役割の例え	「全体地図」 全体を俯瞰して地形(臓器全体、病変)を診る。	「懐中電灯」 至近距離から小さな足跡(初期がん)を見つける。
検査方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 強力な磁気を使って、膵臓・胆のう・肝臓を含めたお腹の「全体像」を撮影します。 ● トンネルのような機械に入り、約 20~30 分横になるだけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 胃カメラの先端についた超音波装置で、胃の壁越しに膵臓へ「至近距離」からアプローチします。 ● 鎮静剤(眠くなる薬)を使い、口から内視鏡を入れます。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ● 膵管(膵液の通り道)の形や、全体の位置関係を把握するのに優れています。 ● 横になっているだけで終わるため、体への負担が非常に少ないのが特徴です。 ● 人間ドックと同日に検査可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1cm 以下の極めて小さな変化を見つける能力は、現在ある検査の中で最強。微細な異常も捉えます。 ● この検査に長年取り組んできた小川院長や小玉医師をはじめ、熟練の専門医が担当します。
得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 膵臓・胆のう・肝臓の全体像把握 ● 膵管の拡張や形の変化の発見 ● EUS の死角となる部分のカバー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 10mm 以下の小さな腫瘍の発見 ● 嚢胞(水の袋)の中身の詳しい観察 ● 早期発見の「最後の砦」
弱点	小さすぎる病変(初期)は映らないことがある。	肥満の方や、膵臓の端(尾部)などは見えにくいことがある。
体への負担	少ない(放射線被曝なし)	あり(鎮静剤を使用。検査後は休憩が必要)
こんな方に	まずは全体をチェックしたい方、内視鏡が苦手な方。	「とにかく精度にこだわりたい」方、糖尿病がある方、血縁者に膵臓がんの方がいる方。
価格(税込)	55,000 円	60,500 円
職域人間ドックのオプション	●	—
単独コース	●	●